

水稻の営農再開地区における 斑点米カメムシ類防除の実証

<研究目的>

斑点米カメムシ類に登録のある「箱施用剤」、
「散布剤」の防除効果を現地実証する

<実施場所>

田村市常葉町堀田地区

福島県農業総合センター生産環境部福島市駐在

現地に導入した実証技術

●斑点米カメムシ類に登録のある薬剤

- ・箱施用剤:チアトキサム・ピロキロン粒剤
(商品名 デジタルメガフレア箱粒剤)
- ・散布剤 : ジノテフラン液剤
乳熟期頃の1回散布
(商品名 スタークル液剤10)

実証ほの設計 (斑点米カメムシ類防除)

・田村市常葉町堀田地区

No.	地区	処理内容	品種	斑点米カメムシ防除体系		
				育苗箱施用	散布剤	散布日
1	黒川	散布剤	チヨニシキ	-	ジノテフラン液剤	8/20(出穂後15日)
2	黒川	無防除	チヨニシキ	-	-	-
3	黒川	箱施用剤+散布剤	ひとめぼれ	チアトキサム・ピロキロン粒剤	ジノテフラン液剤	8/18(出穂後12日)
4	黒川	箱施用剤	ひとめぼれ	チアトキサム・ピロキロン粒剤	-	-
5	板平	散布剤	チヨニシキ	-	ジノテフラン液剤	8/19(出穂後13日)
6	板平	無防除	チヨニシキ	-	-	-

※ チアトキサム・ピロキロン粒剤(商品名:デジタルメガフレア箱粒剤) 50g/箱
ジノテフラン液剤 (商品名:スタークル液剤10) 1000倍液

・調査協力:農総セ作物保護科

実証ほ(黒川7月)



実証ほ(黒川 7/25)

ホソハリカメムシ



メシバなどが繁茂



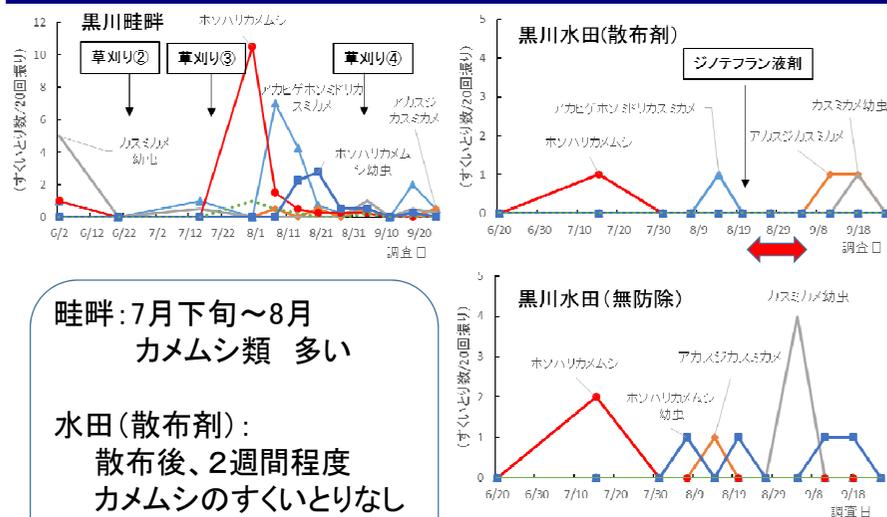
散布剤による防除(8/20)

実証ほ(板平 7月)



畦畔(法面)のカメムシが少ない

結果 カメムシ類の調査(黒川 チヨニシキ)



畦畔: 7月下旬~8月
カメムシ類 多い

水田(散布剤):
散布後、2週間程度
カメムシのすくいとりなし

結果 「箱施用剤」や「散布剤」 → 斑点米率 概ね0.1%以下

No. 地区	処理内容	出穂期 月/日	散布剤 防除 月/日	品質鑑定※		斑点米を 除いた 鑑定	斑点米率 (%)	水田内雑草発 生状況
				等級	格付理由			
1 黒川	散布剤	8/5	8/20	2等上	青未熟 死米	2等上	0.09	なし
2 黒川	無防除	8/5	-	規格外	死米 カメムシ	2等上	1.26	なし
3 黒川	箱施用剤+散布剤	8/6	8/18	2等下	青未熟 青死米	2等下	0.10	8月上旬よりノビエ やや目立つ
4 黒川	箱施用剤	8/6	-	2等下	青未熟 青死米	2等下	0.08	ノビエ散見される
5 板平	散布剤	8/6	8/19	2等下	青死米	2等下	0.11	なし
6 板平	無防除	8/6	-	2等中	青未熟 カメムシ	2等上	0.31	なし

注1 散布剤防除は、概ね乳熟期。
注2 品質鑑定はJA郡山市農産物協議会による評価

青未熟粒などで品質低下

- ・乳熟期頃の散布剤(1回)でも効果あり
- ・斑点米発生のリスク高い地区 → 「箱施用剤」+ 「散布剤」

まとめ・導入した実証技術の評価

草刈り 中断
「出穂2週間前
～ 散布剤後,2週間」



● 実証ほ結果

箱施用剤・乳熟期の散布剤

斑点米率0.1%以下 → 防除効果あり

● 現地 斑点米発生の高リスクが地区

→ 「箱施用剤＋散布剤」の体系防除

畦畔の草刈り、本田内雑草管理も啓発 色彩選別機の導入